
りんごの木

神凪

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

りんごの木

【Zマーク】

Z6079J

【作者名】

神風

【あらすじ】

リンクに願いを託すお話

ギン死ネタ注意

『りんごの丸』

窓をのぞいてみると、ギンが、お庭で水をまいている。こんな、いつもの風景でいつもと違った彼の表情を見た。

それは、決して嫌な表情ではなく、とても嬉しそう。

ボクは外へ出てギンの元へ向かう。

「どうしたの？ギン。そんなに嬉しそうな顔をして」「ん？ああ、ペン。見る、コレを植えたんだ」

そう言つて指を指す先にあるのは、小さな、小さな何かの苗。

「これは？」

「林檎の木だ」

「リンゴ？」

「ねえ。お前リンゴ大好物だろ？実がなつたら一緒に食おつかな」

そういうって彼は微笑つた。

幸せそうに、愛おしそうに、そのたつた数センチの苗を見ながら。

「…………ねえ、ギン」

「ん?」

「林檎の木つてさ、実がなるよつになるまで何年もかかるよね。ギンはそれを知つて植えてるの?」

「実がなるまで、一緒に暮らせたらいいなと思つて、な」

そんなの、叶わない願いなのに。

何も言わず、苗を見つめているギンは何を思つているのだろう。もしかすると。

・・・・・・・・・どうせ幻滅することは分かっている。
それでも、託してみようか。一人の祈りを、この木に

「・・・・・・・・・そう、だね。・・・・・・・・・ねえギン、」

「ん?」

「ボク、料理下手だからさ、ちゃんとギンが皮を剥いてよ」

「当たり前だらう、お前なんかに任せられるか」

そう言って笑いあつた日から一年後、ギンは、死んだ。

結局は叶わぬ願い。そんなこと知れていた。

でも、毎日一人でりんごの苗を育てながら、笑い会つた思い出は、今も、鮮明に、思い出せる。

これは、りんごの苗の神様が、僕たちの祈りを叶えてくれたのかも

しれないと。

あの日から、ちょうど80センチ育った苗の前で、頬を伝つ何かに
気づかないふりをして、共に笑い会つた彼に告げる。

「約束破り。ボクが皮むきに失敗して手でも切つたらどうするんだ
よ」

ボクは、この苗にもう一つ祈りを託す。

毎日、水をかかさず与えて大切に育てている林檎の木に、どうか実
がなりませんように」と。

(後書き)

よろしければ」の後、「僕は、戦争を望んでいるのかも知れない」
を「」一読ください

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n6079j/>

りんごの木

2010年10月15日16時03分発行